

# 本部・本社での取組み▶

様々な活動の裏側にある体制や仕組み  
活動の結果などをご紹介します。

## グリーン調達の推進

### 店舗備品のグリーン資材の積極導入

新規店舗への事務用品等の備品供給は、目標値のグリーン資材使用比率72%を達成しました。2004年度も継続して取組み、さらに使用率75%を目指していきます。



### ペットボトルを原料として作成した製品を積極的に利用

毎年、新入社員に対しては、ペットボトル100%の制服用ブレザーを配付しています。2003年度は444着(311kg)を配付し、新入社員に循環型リサイクルの必要性を実例をもって意識付けしました。



# ワタミグループの環境管理はどのようなになっているの？

ワタミグループは環境方針の下、ワタミエコロジー(株)とスクラムを組んで「環境貢献」を実践しています。

## 環境方針

### 環境基本方針

ワタミグループは、「安全・安心」な食材をより多く確保してお客様に提供するとともに、地球や自然にやさしい環境の保全に貢献することを当グループの責務と考え、すべての店舗および事業所を対象とした環境負荷の削減を図るための可能な限りの努力を行います。

### 環境方針 2003年5月1日

- ワタミグループは、環境基本方針の理念にもとづき事業活動の中で環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定して取組み、その結果を見直していきます。
- 特に以下の項目に取組むために具体的な環境行動計画を策定し、継続的改善および汚染の予防をお約束します。  
電気使用量の削減(店舗) 水使用量の削減、排水の水質改善(店舗) 生ゴミ廃棄量の削減(店舗) 紙使用量の削減(本社) リサイクルシステムの構築
- ワタミグループの活動に関連する環境法規制および当グループが同意するその他の要求事項を順守します。
- ワタミグループのすべての従業員に対して継続的に教育を行い、環境に対する意識を高めるとともに本方針の浸透を図ります。
- 本方針を適切な機会をとらえて積極的に公開し、開示要望にお応えします。

## ISO14001の取組み

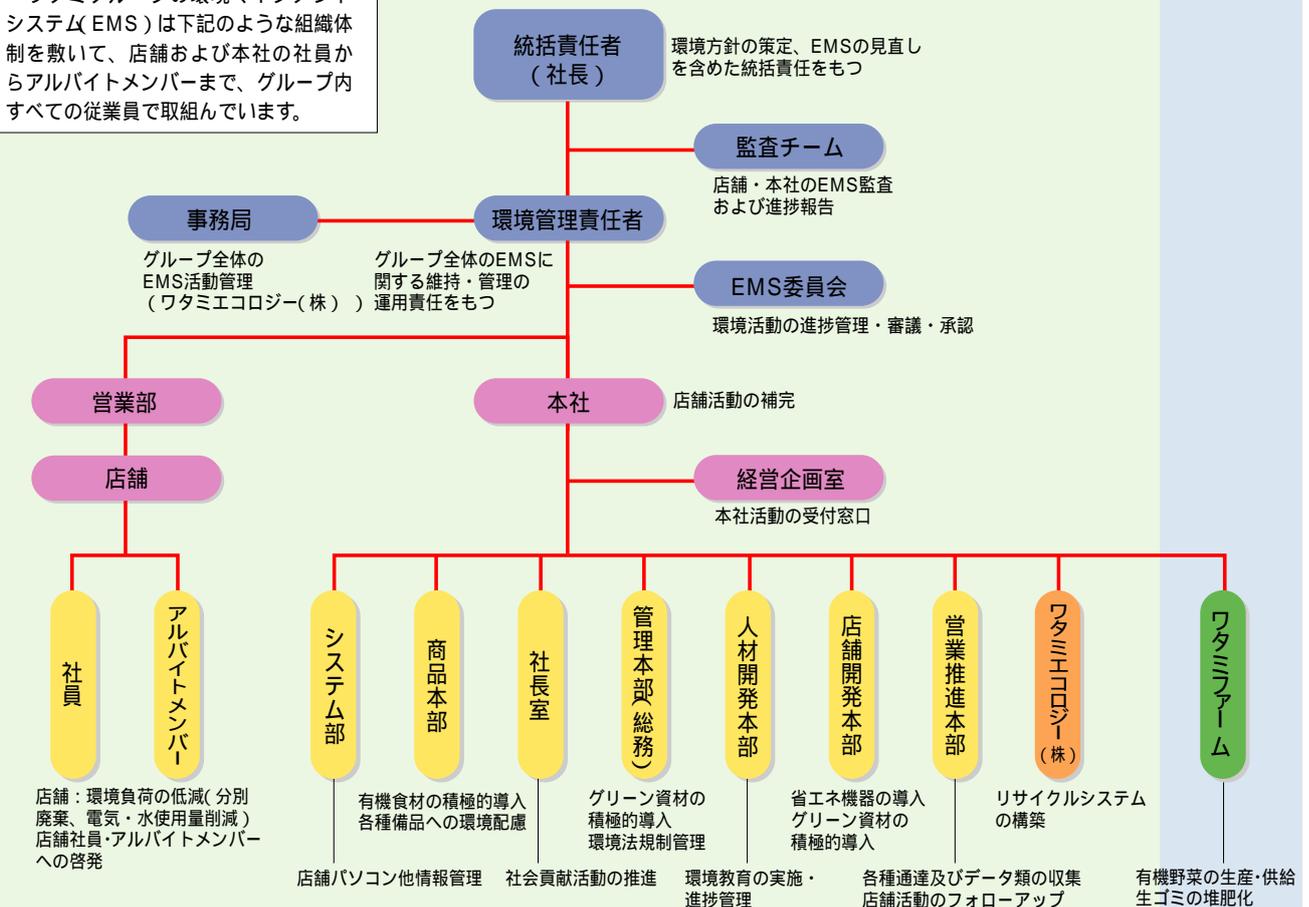
ワタミグループは1999年7月に、日本の外食産業として初めて、本社および全店舗にてISO14001環境マネジメントシステムを取得しました。2002年7月に3年間の認証期間を無事終了することができましたので、同月に審査対象店舗、範囲を拡大し改めて認証を取得いたしました。2004年7月現在の認証対象サイト数は、384店舗、1本部、2事業所、2グループ会社の合計389となっています。

私たちはこれからも対象店舗、活動範囲を広げながらシステムのPDCAの仕組みを活用して、環境活動の継続的改善を図っていきます。



ワタミグループの環境マネジメントシステム(EMS)は下記のような組織体制を敷いて、店舗および本社の社員からアルバイトメンバーまで、グループ内すべての従業員で取組んでいます。

2004年4月1日現在



ワタミエコロジー(株)は2004年7月1日にジャパン・リテイル・メンテナンス(株)より社名変更されています。

# ワタミグループの環境目標はどのようなものがあるの？

お店での環境負荷低減目標から有機野菜の使用率拡大まで様々な目標を設定して活動しています。

2003年度目標・実績 および2004年度目標

環境目的	2003年度目標	2003年度結果	2004年度目標
電気使用量の削減(店舗)	既存店使用量(2002年度対比) 現状維持	既存店前年比: 87.3% (12.7%削減) 1店舗平均: 187,291kWh 全店計: 62,255,412kWh	既存店使用量(2003年度対比) 7%削減
水使用量の削減(店舗)	既存店使用量(2002年度対比) 現状維持	既存店前年比: 89.9% (10.1%削減) 1店舗平均: 3,635m <sup>3</sup> 全店計: 1,208,074m <sup>3</sup>	既存店使用量(2003年度対比) 2%削減
水質の改善(店舗)	水質測定値[3項目] (2002年度対比) 10%削減	BOD前年比: 84.6% (436mg/L 15.4%削減) SS前年比: 112.5% (199mg/L 12.5増加) ノルマルヘキサン前年比: 123.1% (159mg/L 23.1増加)	水質測定値[3項目] 下水道法基準値内維持
生ゴミの廃棄量の削減(店舗)	既存店生ゴミ廃棄量 15%削減	既存店前年比: 78.7% (21.3%削減) 1店舗平均: 12.1t 全店計: 4,041t	既存店生ゴミ廃棄量 (2003年度対比) 25%削減
廃棄物リサイクル率の向上(店舗)	分別廃棄遵守率90%	分別廃棄遵守率62.1%	分別廃棄遵守率90%
紙使用量の削減(本社)	コピー用紙使用量 出店伸び率対比現状維持	出店伸び率対比: 92% (8%削減) 出店伸び率: 118% コピー使用量前年比: 109%	コピー用紙使用量 出店伸び率対比10%減少
グリーン資材の導入	店舗用事務用品 グリーン資材利用率70%	グリーン資材利用率: 72% 購入金額: 1,243千円	店舗用事務用品 グリーン資材利用率75%
リサイクルシステムの構築	生ゴミ破碎乾燥機 100店舗導入	23区内 73店舗導入	生ゴミ破碎乾燥機 稼働率100%
法律の順守	新店適合性のチェック 実施率100%	実施率100%確保(63店舗)	新店適合性のチェック 実施率100%
教育訓練の実施	グループの全新生社員への 自覚教育実施率100%	実施率100%確保 (全新生社員394人)	グループの全新生社員・ 店長候補社員への 環境教育実施率100%
JAS有機野菜・食品の使用率拡大	使用率35%	使用率平均24%、 2004年3月は30.6%達成 全野菜使用量 8,297t 有機野菜使用量 2,019t	使用率35%
添加物の削減	-	-	削減対象40アイテム 計1t削減

廃棄物の1店舗あたり原単位は、2003年度平均の334店舗で換算しています。 : 既存店比較店舗数は308店舗です。

# 環境にどのくらいお金をかけてどのような効果があったの？

毎年4億円程度の環境コストをかけて、CO<sub>2</sub>削減などで効果が表れています。

## ワタミグループの環境会計

環境会計の集計範囲は、ワタミグループの本社および全直営店舗で2003年4月から2004年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。

- それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。ワタミグループでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。
- (1) 店舗・本社における環境目的・目標を達成するための活動に関わるコスト(目的・目標コスト)
  - (2) 環境法規制に対応するために必要なコスト(法規制対応コスト)
  - (3) 環境マネジメントシステムの適切な運用・維持を図り、環境パフォーマンスを改善していくために必要なコスト(環境活動コスト)

## 集計結果(経済効果)

2003年度の環境保全コストは405百万円でした。その内の約45%が目的・目標コストにあたります。店舗での環境活動を徹底させるためのスタッフ教育と店長およびマネージャーによる実施状況確認と徹底に向けたミーティング、清掃作業への支出が含まれます。また、残り55%には、店舗から出る一般廃棄物、粗大ゴミ、廃油の委託処理費用、環境担当者の人件費、水質等の検査費用、新規取組みへの研究費用が含まれます。

2003年度の既存店における省エネ・節水対策効果は、今年度も確実に現れ、今年度の活動のコスト削減効果は約310百万円となりました。

## CO<sub>2</sub>(地球温暖化ガス)の把握と削減効果

2003年度の活動結果によるCO<sub>2</sub>削減効果は、2,764t-CO<sub>2</sub>になりました。

ワタミグループでは、2004年、地球温暖化ガスであるCO<sub>2</sub>の排出量の把握とその削減について、第一優先の課題として取り組んでいます。

このCO<sub>2</sub>への認識を高めるために現在、外部から講師を招いて勉強会や報告会を行なうとともに、CO<sub>2</sub>排出量 および削減量などの情報を、毎週全従業員に向けて発信しています。

これらの進捗は、今後、ふれあい報告書にて毎年発表していく予定です。

環境保全コスト集計表

(単位：千円)

コスト項目		具体的な取組み	コスト	
目的・目標コスト	店舗	従業員の教育と店長による実施状況チェック	節電・節水・ゴミの分別の徹底とチェック	29,457
		電気・水使用量の削減	動力削減機の導入	37,296
		排水の水質改善	グリストラップの管理・水質検査	37,512
		生ゴミ、可燃物・不燃物廃棄量の削減	カット野菜の積極導入、ロス削減、生ゴミの水切り徹底 他	1,022
		グリーン資材の導入	エコ商材ユニフォーム(ブレザー)の導入	6,660
	本社	紙の使用量削減	会議資料ペーパーレス化促進、部署別紙使用量データのフィードバック他	0
		リサイクルシステムの構築	リサイクル・ゼロエミッション活動の計画・運用(リサイクルセンター運営、EMS委員会活動他)	64,819
		環境教育	従業員への教育の実施	2,528
	小計			179,294
	法規制対応コスト	適正な廃棄物処理	廃棄物の委託処理	213,802
適合性チェック		環境法規制の適合性チェック	492	
小計			214,294	
環境活動コスト	環境マネジメントシステムの管理活動	環境保全活動の推進、環境監査の計画的実施	10,917	
合計 ( + + )			404,505	

店舗における経済効果(前年比較)

(単位：千円)

効果項目	既存店の削減額
省エネルギーの推進	167,743
節水の推進	86,502
廃棄物処理委託費(リサイクルによる差益含む)	55,424
合計	309,669

店舗におけるCO<sub>2</sub>削減効果(前年比較)

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

効果項目	既存店の削減量
省エネルギーの推進(電気)	2,982
省エネルギーの推進(ガス)	292
省エネルギーの推進(水)	74
合計	2,764

既存店比較対象店舗数：308店舗(2002年度末店舗数)

## 社員への環境意識向上策はどのようなものがあるの？

座学から農業研修まで幅広いメニューがあり店長認定にも環境教育が必須です。

### 環境教育

ワタミグループでは全従業員および一部のお取引先を対象として、環境活動の理解と環境マネジメントシステムのより深い浸透を実現するために様々な研修やセミナーを実施しています。

#### ビデオレター視聴

経営トップによる、ワタミグループの環境活動の考え方や当年の行動指針の発表などをビデオに収録し、中途入社社員、アルバイトメンバーをはじめ全従業員に毎月（年1回は環境に特化した内容）視聴してもらうことにより環境意識の浸透を図っています。

#### 新入社員研修

入社した全社員に対して、現状の環境問題を含めてワタミグループが環境活動に取組む意義について説明し、各人に一企業人としての環境活動に対する決意表明をしてもらっています。

#### 店長研修および店長認定セミナー

ワタミグループでは、店舗の環境活動は店長が中心となって推進していきます。店長には環境活動を十分に理解してもらうために、毎年1回、また新しく店長に昇格する際には店長認定セミナー時に環境手順教育を組入れて、理解浸透を図っています。

#### 店舗環境ミーティング

店舗では毎月1回ミーティングを行い、店長がアルバイトメンバーに対して自店の環境活動の進捗と反省を報告し、意見交換をします。この中で、店長は反省を踏まえた改善計画を立て、次月の取組みを決定します。この取組み内容を全アルバイトメンバーに通知して次月の行動に反映させ、活動の継続的改善を実践しています。

#### 本部社員研修

本社では、毎年度始めに本社における当年度の取組み内容と考え方を伝える説明会を実施しています。これを受けて、従業員からは当年度における環境活動に対するコメントを各自提出させ、意識の向上と環境活動の周知徹底を図っています。

#### ISO特別セミナー

ワタミグループでは、グループ会社、店舗のマネージャー、本部EMS委員、内部監査員等に向けて環境問題やEMS活動に関する理解浸透および監査員の養成などの専門教育を実施しています。これら教育を通して、グループ会社への環境活動の浸透および社員の専門性の向上を推進しています。

#### 2003年度環境教育

	研修名	研修目的
全従業員	ビデオレター視聴	自覚教育
店舗社員	新入社員研修	自覚教育
	店長認定セミナー	EMS理解浸透・手順教育
	店長研修	EMS店舗手順教育
店舗従業員(アルバイト)	店舗環境ミーティング	EMS店舗手順教育
営業部課長、エリアマネージャー	ISO特別セミナー	EMS理解浸透・専門教育
本部社員	本部社員研修	EMS本社手順教育
EMS委員	ISO特別セミナー	EMS専門教育(廃棄物理解浸透)
監査室・グループ会社	ISO特別セミナー	EMS専門教育(内部監査員養成)
グループ会社	ISO特別セミナー	自覚教育

### 農業研修

1998年に、北海道帯広市にて契約栽培を始めたことをきっかけに始まったこの研修は、ただ単に、契約栽培で生産を委託するのではなく、店長を中心とする従業員自らが直接農業に関わることで、食材に対する知識を広め、普段の店舗営業に活かしていくことや、直接、自然に触れることによって、環境への関わりを考えることなどを目的としています。

2002年度からは、ワタミファーム（千葉県・群馬県）に場所を移し、有機農業に関する講義なども行い、更に充実した内容で規模を大きくして研修を行っています。

2003年度は98人が参加しました。2004年度は130人の参加を予定し7月までの4ヶ月で44名の参加が終了しています。

#### 農業研修参加者人数

(人)

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
参加社員人数	43	82	86	36	98	130(予定)

2002年度は、ワタミファームへの会場切り替え準備のため上半期の実施を見合わせたため、参加人数が減少しています。



ワタミファームでの農業研修



新入社員研修

# お店や本社のリスクチェックはどうしているの？

法規制順守をはじめ、各種監査によってリスクの早期発見・予防に努めています。

## 環境法規制の順守

2003年度は、2006年度より施行される「食品リサイクル法」に向けて、ワタミグループの長年の課題であった生ゴミの減容とリサイクル化に取組みました。

5月より3店舗にて、生ゴミ破砕乾燥機をテスト稼働させてオペレーションの標準化や機器の機能チェックを行い、2003年度は最終的に73店舗に導入して、生ゴミリサイクルの仕組みをスタートさせました。

また、店舗運営に関わる「騒音・振動」「悪臭」「廃棄物」等の法規制に関しては、チェック機能の強化と再発防止に向けた取組みを継続して行なっています。

## SIPの実施 (SIP:スタンダード・インポート・パトロールの略)

店舗監査のフォローアップの一環として、監査担当の社員以外の本部社員による店舗監査(SIP)を各店ごとに年3回行っています。このSIPは、通常の監査の様な抜き打ちでの実施ではなく監査実施日程および監査項目(100項目)を事前告知し監査を行うことで清掃や書類管理などを、一定の周期であるべき姿(スタンダード)を確認することを大きな目的としています。

これは、日頃店舗運営から離れている本部社員が、店舗に入店することにより現場の要望を吸い上げたり、店舗と本部の間の問題点を共有化していく上で、大変有効な手段となっています。

## 衛生検査

店舗では、半年に1回、抜き打ちで衛生検査があり、微生物、温度、清掃・洗浄状況、解凍、備品、害虫対策他、全16分野、計48項目の監査項目があり、点数評価により衛生状態を確認しています。検査結果は随時、会社全体の業務改革会議で報告し、改善指導を行っています。

さらに、定期的な外部からの衛生検査を導入して、腸内検査なども行い、食中毒を持ち込まない仕組みを構築しています。改善状況の確認を徹底しています。

2003年度は、グループ全店舗でのべ760回の検査が行われました。



## ISO9001の取組み

2002年10月に、ISO9001品質マネジメントシステムの認証を、本社および「和民」(255店舗)・「和み亭」(29店舗)の全店舗で同時に取得しました。

月間のお客様満足度80%、クレーム0件を目標とし、サービスの品質の維持、向上に取組んでいます。

ISO14001環境マネジメントシステムに加え、これら2つのマネジメントシステムの併用により、店舗における環境活動を含めたサービスの品質を追求し続けています。



### 品質方針

- 1、商品が美味しいこと
  - 2、商品がタイミングよく提供されること
  - 3、商品が均一化されていること
  - 4、メンバーが親切なこと
  - 5、メンバーに笑顔があふれていること
  - 6、メンバーに活気があること
  - 7、メンバーが礼儀正しいこと
  - 8、店舗は清潔であること
  - 9、明朗会計であること
  - 10、QSCのバランスにおいて  
価格が安いこと
- 品質目標  
「お客様満足度80%・クレーム0件」

## 内部監査

### 店舗監査

店舗の環境活動の進捗確認は、ワタミグループの業務監査と同じタイミングで実施しています。そのなかで、監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の遵守状況などをチェックし、随時、会社全体の業務改革会議にて、統括責任者、営業部宛に是正処置要求を含めた結果報告をしています。

### 本部監査

本社の各部署における環境活動の進捗確認は、毎年2回本社にて実施しています。この監査の結果は、店舗監査同様に統括責任者に報告され、最終的には是正処置の最終確認まで行って継続的な改善に努めています。

